合志市立西合志南小学校　学校だより
“だれかのために　じぶんのために　いっしょうけんめい”
西南小乃風
令和6年5月24日
第7号
文責　田中　宏和

一生懸命に涙したい！

練習を重ねる毎に気合いの入る子どもたち

心が動かされてあふれてくる涙、いわゆる「情動の涙」は人間しか流しません。そういう涙もろさは人それぞれですが、私はかなり涙もろい方です。それも子どもの一生懸命な姿にめっぽう弱いのです。子どもの姿は日常とのギャップが大きければ大きいほど心を動かされるものです。また、その児童・生徒の願いや努力、思いなどの背景をよく知っているときも、より大きく心が揺さぶられます。昨年もあやうく涙が出そうになる瞬間が何度あったことか。そういう感動の瞬間に立ち会えることが、私たちの仕事の醍醐味です。

前号で「もっと良くなる！」とお伝えした通り、子どもたちも、体育主任も、気合いのボルテージは確実に高まっております。日一日と、学年練習、全体練習が積み重なるとともに、担任や学年主任、そして体育主任の思いが子供たちに伝わってきています。そのことは、全体練習での子どもたちの様子から分かります。赤白それぞれの応援団の成長ぶりには凄まじいものがあります。全体練習当初から、白団団長の田中タイタスさん、赤団団長の堤仁那さんの二人は、気合いをみなぎらせていました。よほどの覚悟で臨んでいるのでしょう。表情には、ピリッとどころかビリビリした緊張感がありました。そして、練習が進むにつれ緊張感の中にも充実感が見られました。成長の証です。それは団員に伝わり、全体にも伝わってきています。思えば、彼らの活動は遠足後の練習から始まっていました。あの時、一人一人が頑張って大きな声で自己紹介をしていました。その大声ひとつにしても、あの頃とは感覚が全く違うはず。頑張らなきゃ出なかった大声は、出すのが当たり前、出るのが当たり前になったはず。それが成長です。そんなことを考えつつ練習の様子を見ながら、時折、いや、ちょいちょい目頭を熱くしている校長です。

体育主任も周りの職員の支えを得ながら、日々成長しています。発する言葉に、日に日に勢いと思いが乗ってきています。すると、先輩教師にも火がつき、さらに上をいくような勢いある熱い言葉を子どもたちに投げかけるのです。上のタイトル写真のように、二人の先輩に挟まれる体育主任という、負けず嫌いトリオの構図には、ユーモラスな雰囲気さえ感じます。そして、これにもちょいちょいほくそ笑んでいました。

また、運動会の取組の様子を伝える「体育パワー」も４号まで出されました。体育部のそうした熱意は、保護者の皆様にも感じていただけたのではと思っております。

当たり前のことかもしれませんが、全ての子どもたちが一切の諸事を排して、今日まで運動会に集中出来る環境だったわけではありません。多くの子どもたちが、様々な悩みや心配事を抱えつつも、明日の運動会を目指して頑張ろうとしてきました。そして、それは職員も同様です。

明日はきっと全ての子どもたちが、一生懸命な表情を見せてくれるものと思います。それを見守る職員の熱い姿もあるでしょう。そんな本校のありのままを、保護者・地域の皆様に見守って頂き、子どもたちの姿に共に感動し、こっそり涙まで流していただくことが、今後の子供たちと我々職員のエネルギーにつながります。

昨年同様、明日は期待しかありません。